

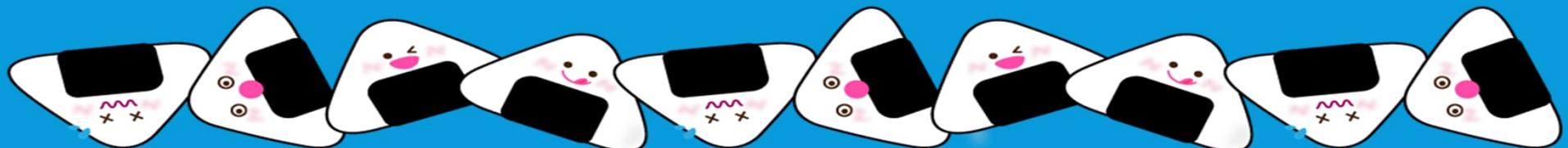
フードバンク関西×長田区社会福祉協議会

2025年度 生活困窮者支援モデル事業

子ども元気便♪

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
長田区社会福祉協議会

地域福祉ネットワーカー 高取 夏希



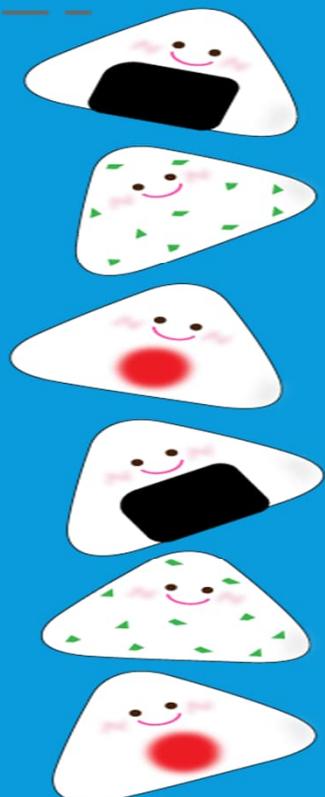
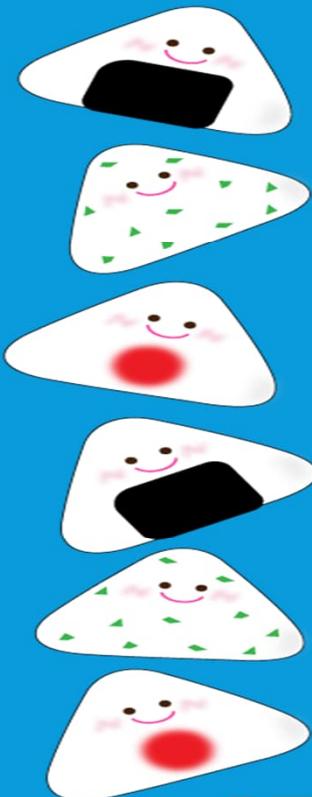
長田区社会福祉協議会としての目的

- ・長田区社会福祉協議会へ相談のあった
ケースに対し、
3か月に一回、世帯の変化をキャッチし、
必要な時に、自立支援制度につなぐことで、
世帯の自立を支援するものとする。

対象者について

長田区内に在住（住民票も）、

小学1年生～高校3年生以下の
子どもがいる世帯で…



対象者について

1, 長田区社会福祉協議会で
申込手続きをして、

コロナ特例貸付と教育支援資金の貸付を
受けている世帯。

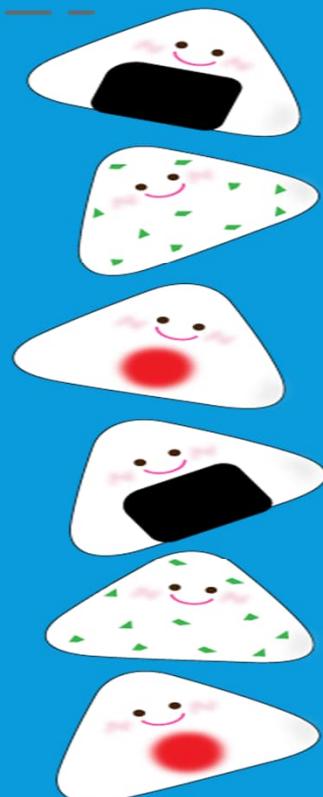
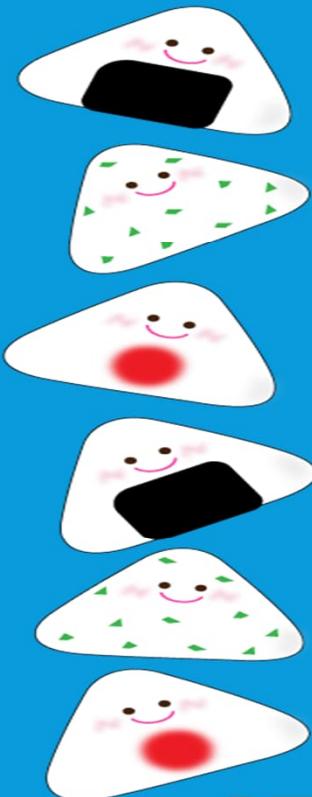
対象者について

2. 長田区社会福祉協議会に相談のあった世帯の
うち次のいずれかに該当する世帯

- ①生活保護を受給していないひとり親世帯
(児童扶養手当受給世帯)
- ②低所得者世帯 (おおむね非課税世帯)

対象者について

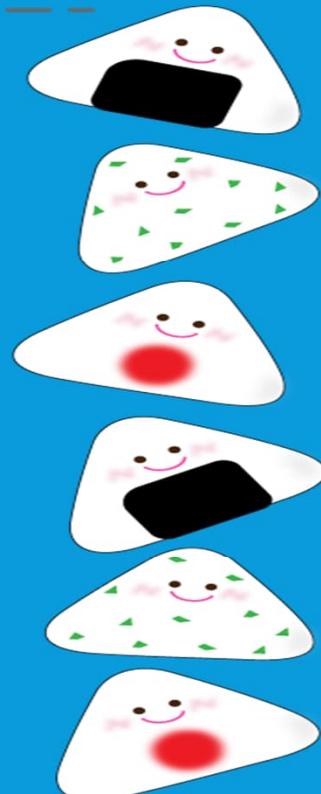
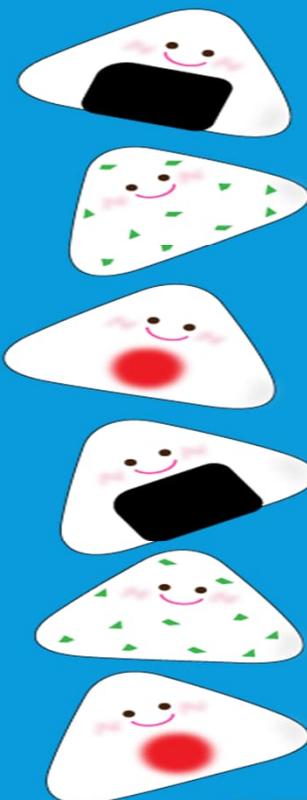
3. くらし支援係へ相談があった世帯で
モニタリング的に支援が必要な世帯



支援事例①について

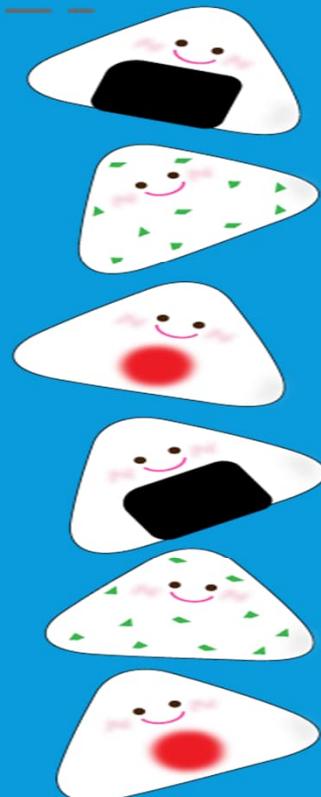
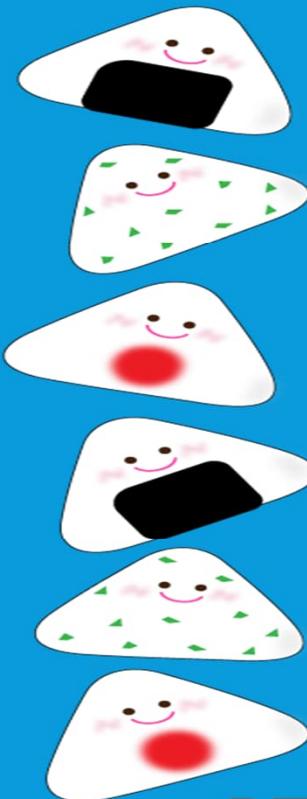
40代母・小2長女・年中長男

母は離婚後、心身に不調をきたし、退職。
求職活動をしたものの、うまくいかず、
実家との関係も破綻。



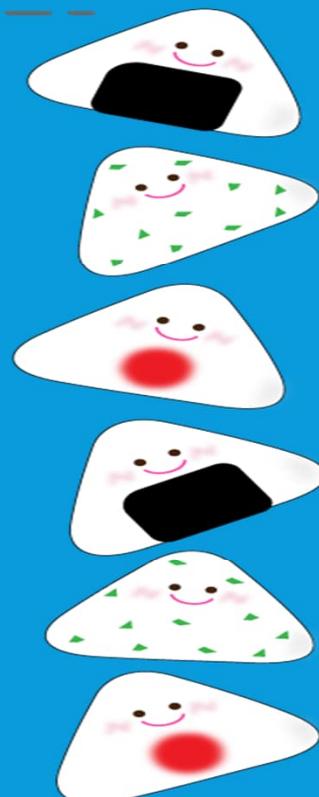
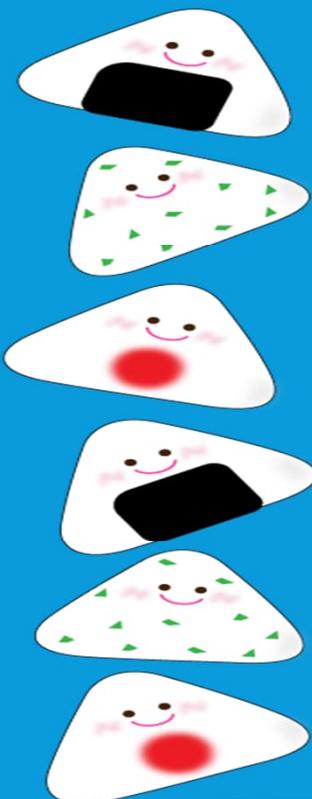
支援事例①について

だれにも弱音をはいてはいけない、
頼ってはいけないと思うことで、
体調不良が悪化していた。



支援事例①について

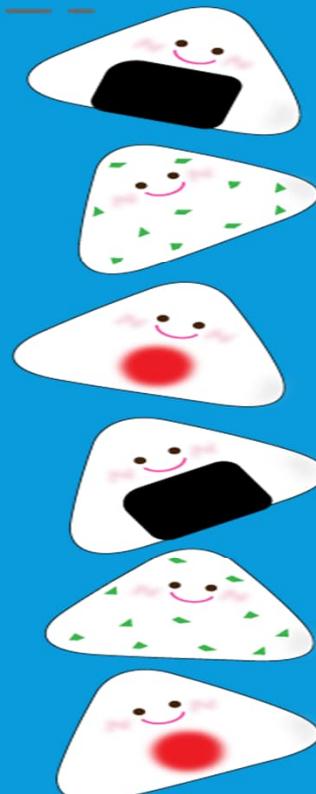
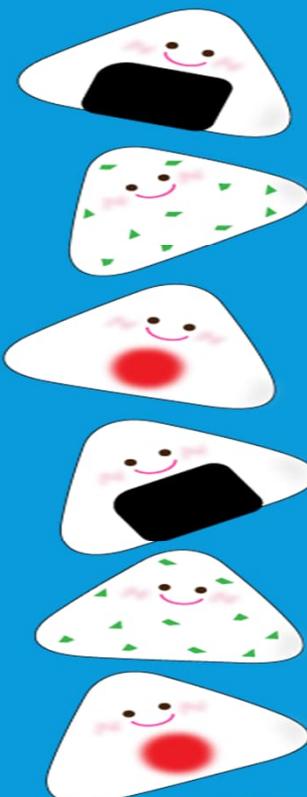
こども元気便を通じ、
長田区社会福祉協議会での相談が密になり、
生活保護受給に向けて相談中。



支援事例②について

40代母
高1長女・中3二女・年中三女

母は、知的障害があり、
子の成長が自分を追い越してきたと
育児に悩みを抱えていた。



支援事例②について

計画相談事業所、障害福祉サービス事業所
へも相談していたが、いろいろと言われることを口うるさいと感じてしまい、
関係性が破綻。

行く先を告げず、勝手に転居してしまった。

支援事例②について

「子ども元気便が届かない…」という連絡を
フードバンク関西 担当者様よりいただき、
本人へ架電。

思いを傾聴。

支援事例②について

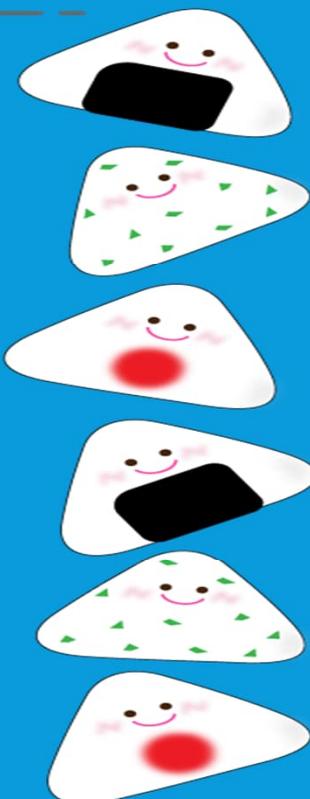
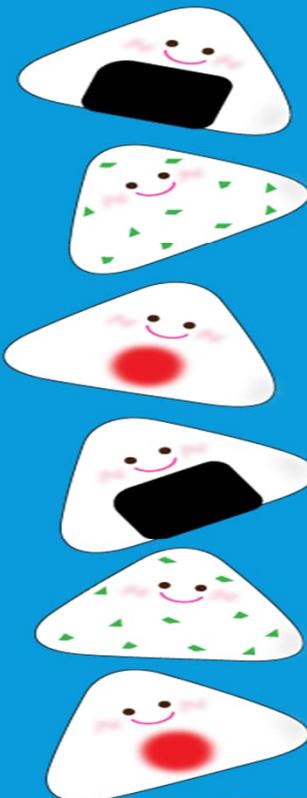
こども元気便の送付を希望され、
転居先住居を教えてくれた。

第一便を受け取ったあと、
長田区社会福祉協議会との関わりを継続。

計画相談事業所との関係改善につながった。

支援事例②について

長女と次女については
児童養護施設で生活を送ることとなり、
適度な距離で
本人が穏やかに子育てできる環境について
検討・支援中。



子ども元気便の成果について

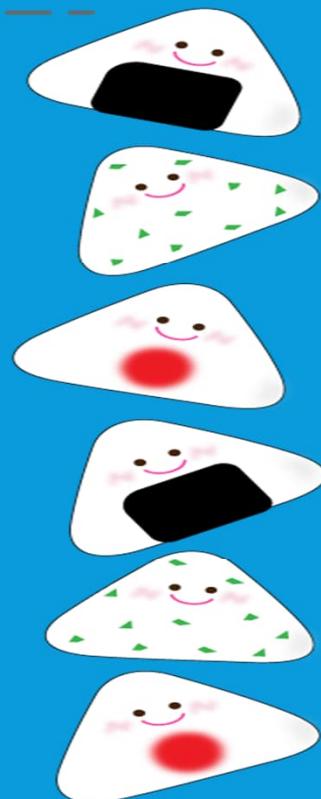
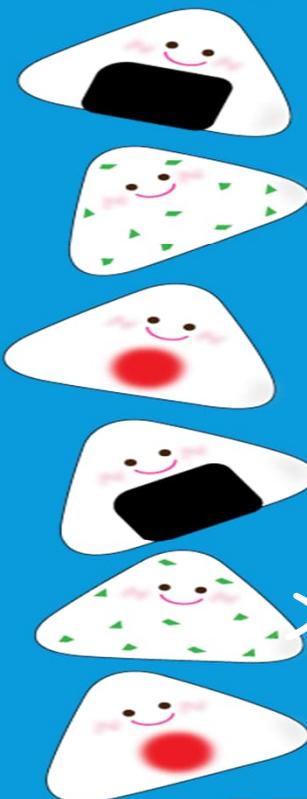
世帯状況変化の迅速なキャッチと
支援への結び付け

定期的な食糧支援を「入口」として機能させ、
行政機関では把握しにくい初期のサインをと
らえることができ、
相談窓口や、専門機関との連携を
円滑に行うことができた。

子ども元気便の成果について

「孤立の防止」と「安心感の提供」

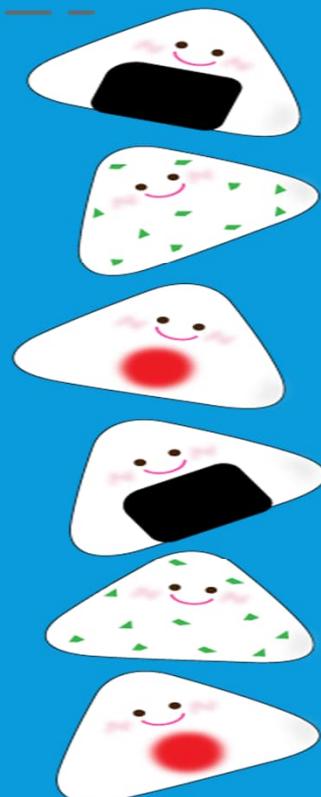
食料の提供だけではなく、
相談窓口の存在や
対象者に「ひとりではない」という
メッセージを常に伝える重要な機会となった。



こども元気便の成果について ~まとめ~

「孤立の防止」と「安心感の提供」

前述の二つの軸で、
子育て世帯に対する多面的かつ、
きめ細やかなサポートを提供でき、
生活の安定と福祉の向上に
大きく貢献できたと考えます。



最後に...

ご清聴、ありがとうございました♪

